

調査結果の概要

第1 人口

1 本県の状況

(1) 人口

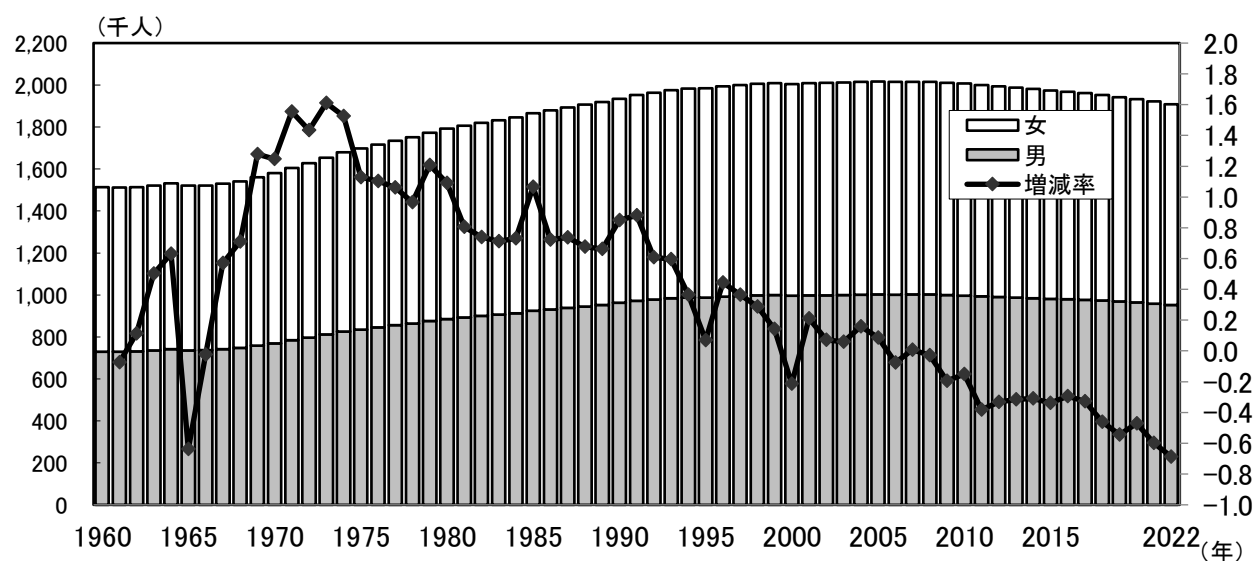
令和4(2022)年10月1日現在の本県の総人口は1,908,380人(男951,965人、女956,415人)で、令和3(2021)年10月1日現在に比べ13,195人の減少(男6,768人減、女6,427人減)、対前年増減率は▲0.69%(男▲0.71%、女▲0.67%)となった。(表1、図1、統計表第1・2・3表)

表1 令和3(2021)年10月～令和4(2022)年9月中の人口増減

(単位：人)

区 分	総 数	男	女	外国人(内数)
令和3年10月1日現在	1,921,575	958,733	962,842	37,056
出 生	11,061	5,596	5,465	296
死 亡	24,370	12,484	11,886	70
自然増減(①)	▲13,309	▲6,888	▲6,421	226
転 入	69,122	38,331	30,791	13,303
転 出	69,008	38,211	30,797	11,453
社会増減(②)	114	120	▲6	1,850
人口増減(①+②)	▲13,195	▲6,768	▲6,427	2,076
令和4年10月1日現在	1,908,380	951,965	956,415	39,132

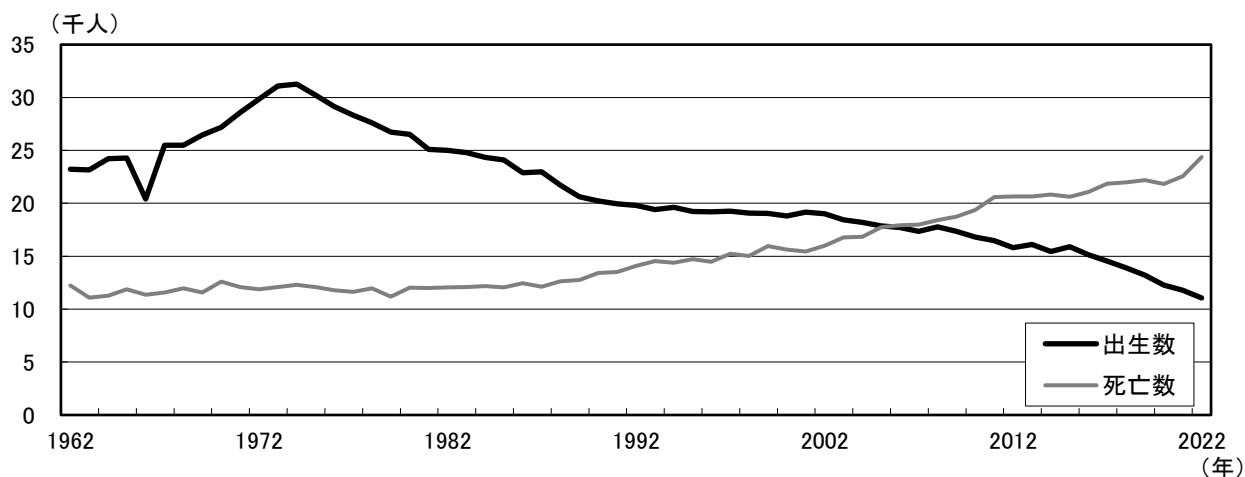
図1 総人口及び対前年増減率の推移(昭和35(1960)年～令和4(2022)年)



(2) 自然動態(令和3(2021)年10月1日～令和4(2022)年9月30日)

自然動態は、13,309人の減少(対前年増減率▲0.69%)で、減少幅は前年(10,759人)に比べ2,550人増加した。内訳をみると、出生数は11,061人(対前年735人減)、死亡数は24,370人(対前年1,815人増)で、調査開始以来、出生数は過去最少、死亡数は過去最多となった。(図2、統計表第1・3表)

図2 自然動態の推移



(3) 社会動態 (令和3(2021)年10月1日～令和4(2022)年9月30日)

社会動態は114人の増加(対前年増減率0.01%)で、前年(812人減)から増加に転じた。

内訳をみると、転入数が69,122人(対前年3,552人増)、転出数が69,008人(対前年2,626人増)で、5年ぶりの転入超過となった。(図3、統計表第1・3表)

このうち、県外の転入・転出については、県外からの転入は44,097人(転入全体の63.8%)、県外への転出は42,574人(転出全体の61.7%)で、1,523人の転入超過(国内1,023人の転入超過、国外2,546人の転入超過)となっている。都道府県別では、転出者数、転入者数とも関東地方の都県が上位を占めており、転出超過となっている。(表2・3、統計表第7表)

次に、県外転入・転出者を年齢(5歳階級)別にみると、転入で最も多いのは25～29歳(9,191人)で、次いで20～24歳(8,979人)だった。転出では25～29歳(9,340人)、20～24歳(9,158人)の順であった。転入超過数についてみると、50～54歳が253人で最も多く、転出超過数では15～19歳が423人で最も多かった。(図4、統計表第8表)

図3 社会動態の推移

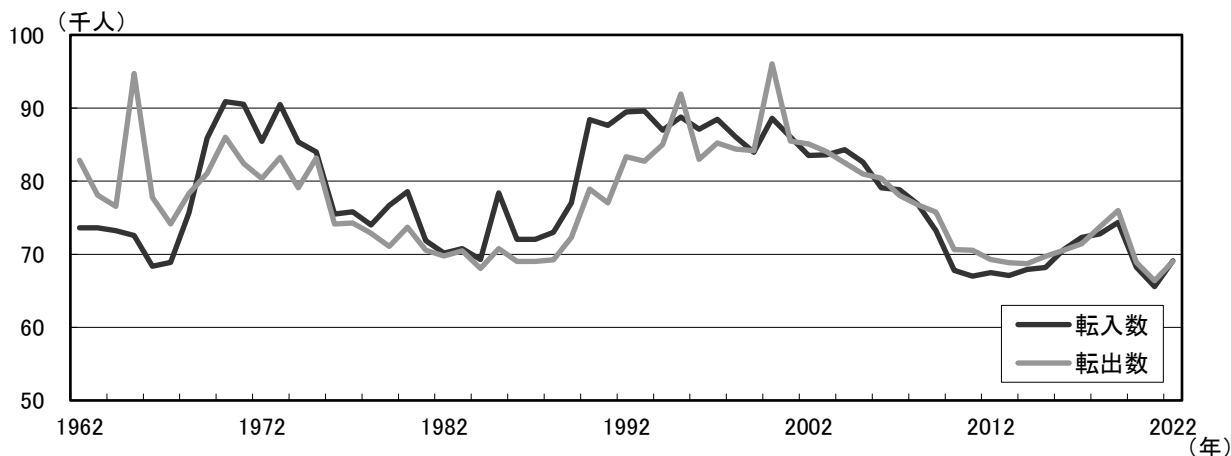


表2 県外からの転入者数・県外への転出者数(地域別)

(単位：人)

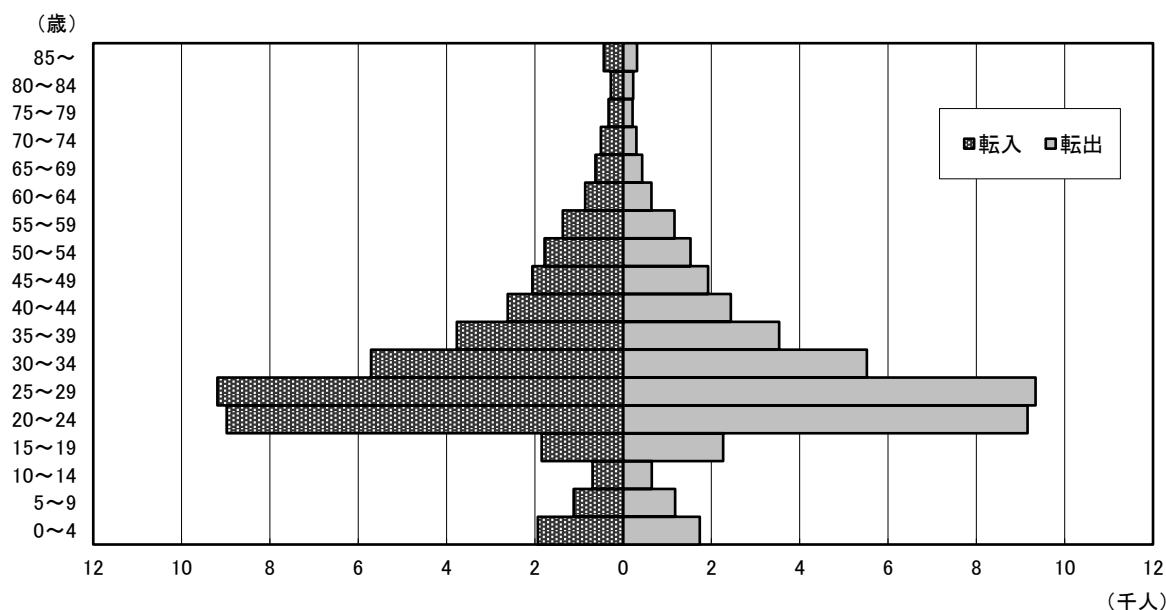
地域	総数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	国内	国外
転入者	44,097	772	3,539	24,638	3,912	2,143	1,029	1,520	37,553	6,544
転出者	42,574	746	2,965	26,740	3,719	2,216	860	1,330	38,576	3,998
増減	1,523	26	574	▲ 2,102	193	▲ 73	169	190	▲ 1,023	2,546

表3 県外からの転入者数・県外への転出者数（上位5都道府県）

（単位：人）

	転入者数		転出者数		転出超過数	
	都道府県	人数（人）	都道府県	人数（人）	都道府県	人数（人）
1	東京都	6,102	東京都	7,350	東京都	▲ 1,248
2	埼玉県	5,410	埼玉県	6,247	埼玉県	▲ 837
3	茨城県	4,082	茨城県	3,842	神奈川県	▲ 539
4	神奈川県	3,099	神奈川県	3,638	群馬県	▲ 133
5	群馬県	3,054	群馬県	3,187	大阪府	▲ 62

図4 年齢(5歳階級)別県外転入・転出者数



(4) 年齢別人口

令和4(2022)年10月1日現在の県人口を年齢3区分別にみると、15歳未満人口が216,405人(対前年5,723人減)、15～64歳人口が1,093,378人(対前年10,069人減)、65歳以上人口が562,998人(対前年2,598人増)であった(年齢不詳35,599人を除く)。

これを構成比で見ると、15歳未満人口11.6%(対前年0.2ポイント減)、15～64歳人口58.4%(対前年0.1ポイント減)、65歳以上人口30.1%(対前年0.4ポイント増)となり、昭和61(1986)年の年齢別調査開始以来、15歳未満人口の割合は減少を、65歳以上人口の割合は増加を続けている。また、75歳以上人口の割合は15.0%(対前年0.7ポイント増)であった。(図5、統計表第9・12表)

なお、全国の年齢3区分別人口構成比は、令和4(2022)年10月1日現在で15歳未満人口11.6%、15～64歳人口59.3%、65歳以上人口29.1%、75歳以上人口15.5%であった。(総務省統計局「人口推計」令和4(2022)年10月1日現在(概算値))

人口の対前年増減率を年齢5歳階級別にみると、増減率が最も高かったのは75～79歳の6.5%で、最も低かったのは0～4歳の▲4.4%であった。(表4、統計表第10表)

図5 年齢3区分別人口構成比の推移

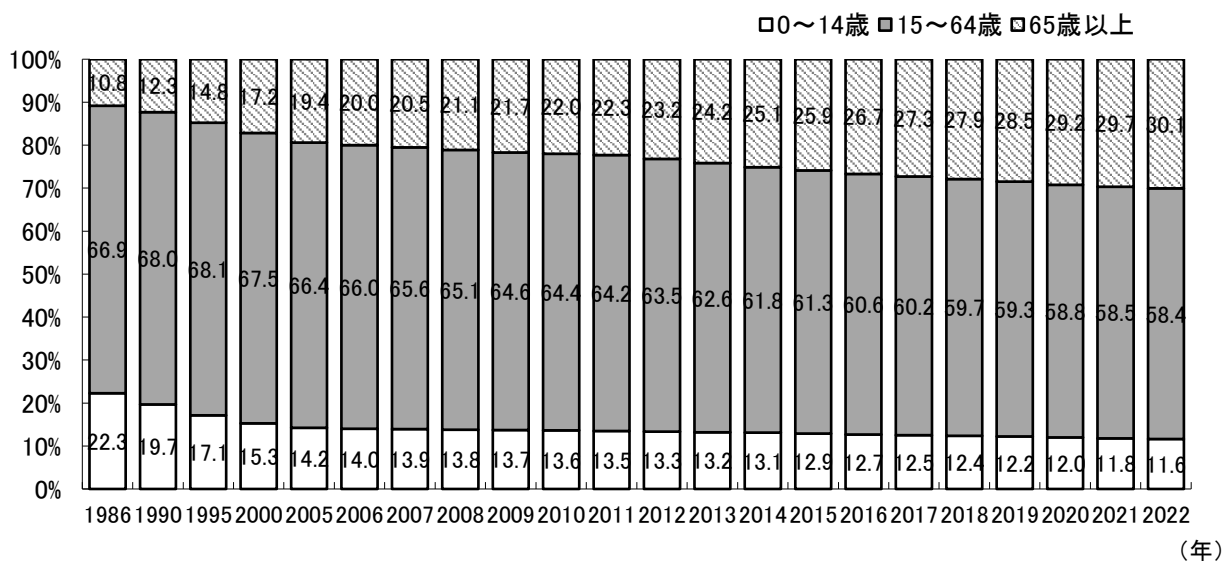


表4 年齢5歳階級別人口の対前年増減数・増減率 (単位: 人、%)

年齢	10月1日現在人口		総人口※に占める割合		対前年増減数	対前年増減率
	令和4年(2022)	令和3年(2021)	令和4年(2022)	令和3年(2021)		
0~4歳	60,595	63,395	3.2	3.4	▲ 2,800	▲ 4.4
5~9	74,224	75,763	4.0	4.0	▲ 1,539	▲ 2.0
10~14	81,586	82,970	4.4	4.4	▲ 1,384	▲ 1.7
15~19	86,711	87,747	4.6	4.7	▲ 1,036	▲ 1.2
20~24	81,125	80,492	4.3	4.3	633	0.8
25~29	83,880	85,667	4.5	4.5	▲ 1,787	▲ 2.1
30~34	92,412	95,729	4.9	5.1	▲ 3,317	▲ 3.5
35~39	108,967	111,466	5.8	5.9	▲ 2,499	▲ 2.2
40~44	121,676	125,151	6.5	6.6	▲ 3,475	▲ 2.8
45~49	143,398	146,634	7.7	7.8	▲ 3,236	▲ 2.2
50~54	138,128	134,869	7.4	7.2	3,259	2.4
55~59	118,927	115,656	6.4	6.1	3,271	2.8
60~64	118,154	120,036	6.3	6.4	▲ 1,882	▲ 1.6
65~69	130,025	135,640	6.9	7.2	▲ 5,615	▲ 4.1
70~74	152,465	155,118	8.1	8.2	▲ 2,653	▲ 1.7
75~79	106,497	100,024	5.7	5.3	6,473	6.5
80~84	81,327	78,374	4.3	4.2	2,953	3.8
85歳以上	92,684	91,244	4.9	4.8	1,440	1.6

※年齢不詳人口を除く

(5) 平均年齢

令和4(2022)年10月1日現在の県人口の平均年齢は48.4歳で、令和3(2021)年10月1日現在(48.1歳)に比べ0.3歳上昇し、年齢別調査開始以来最も高くなった。(統計表第9表-2・12表)

(6) 人口性比

令和4(2022)年10月1日現在の県人口の人口性比(女性100人に対する男性の数の割合)は99.5で、令和3(2021)年10月1日現在(99.6)に比べ0.1下落した。(統計表第1表・9表-2)

2 市町の状況

(1) 人口

市町別の対前年人口増減についてみると、全ての市町（14市11町）で減少した。増減率が最も高いのは下野市（▲0.02%）、最も低いのは那珂川町（▲2.56%）であった。

対前年人口増減について動態別にみると、自然動態では6年連続ですべての市町が減少した。社会動態では6市5町で増加、8市6町で減少した。（図6、図7、表5、統計表第3表）

図6 市町別対前年人口増減率分布図

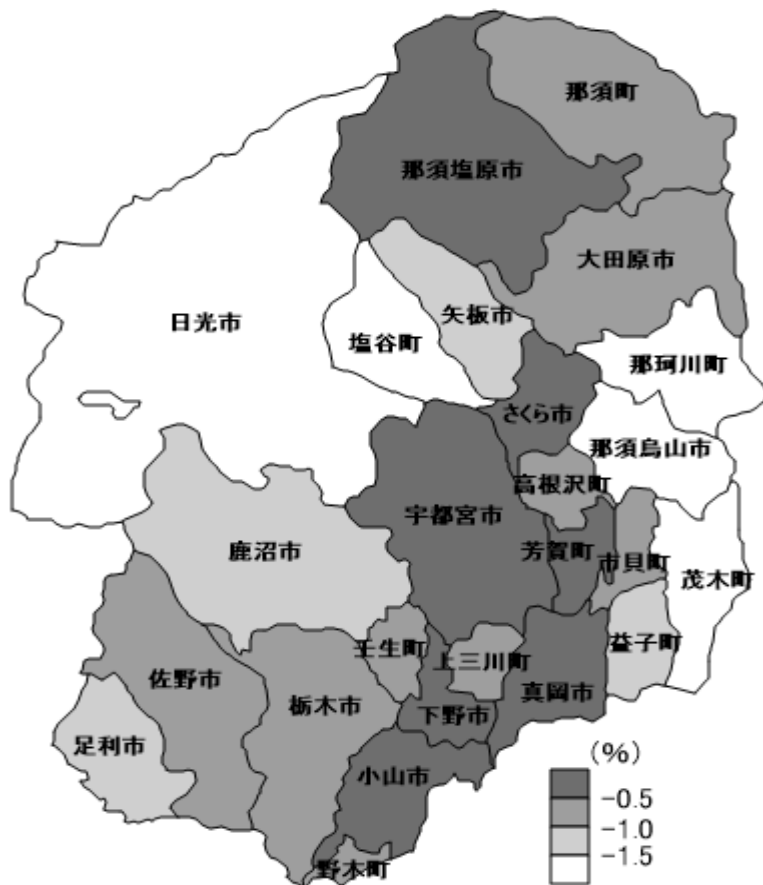
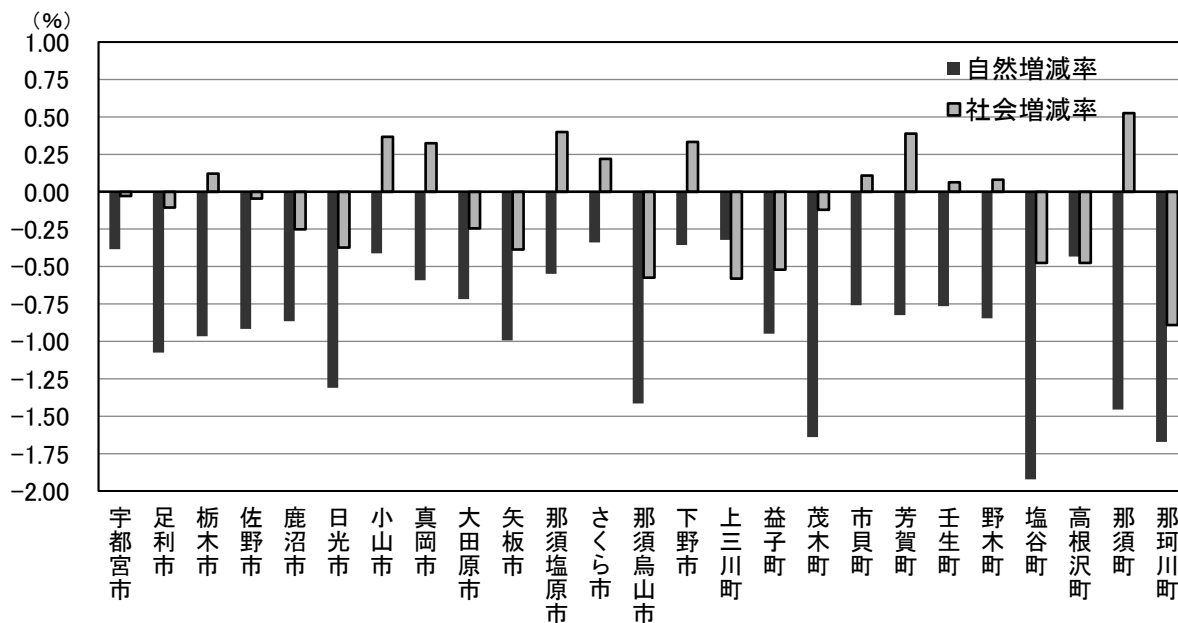


表5 対前年人口増減率順位

順位	上位5市町	
	市町名	増減率(%)
1	下野市	▲0.02
2	小山市	▲0.04
3	さくら市	▲0.12
4	那須塩原市	▲0.15
5	真岡市	▲0.27
順位	下位5市町	
	市町名	増減率(%)
1	那珂川町	▲2.56
2	塩谷町	▲2.40
3	那須烏山市	▲1.99
4	茂木町	▲1.76
5	日光市	▲1.68

(注)順位は、数値の大きい順に付した。

図7 市町別動態別対前年人口増減率



(2) 年齢別人口

市町別に年齢3区分別人口の割合をみると、15歳未満人口の割合が最も高いのは、さくら市(13.1%)、最も低いのは茂木町(7.8%)であった。また、前年に比べ下野市で割合が上昇し、それ以外の24市町で割合が低下した。

15～64歳人口の割合が最も高いのは上三川町(62.1%)、最も低いのは茂木町(47.5%)であった。また、前年に比べ宇都宮市と足利市で割合が上昇し、それ以外の23市町で割合が低下した。

65歳以上人口の割合が最も高いのは茂木町(44.8%)、最も低いのは上三川町(25.1%)であった。また、前年に比べ全25市町で割合が上昇した。(図8、図9、表6、統計表第9表-2)

図8 市町別65歳以上人口割合分布図

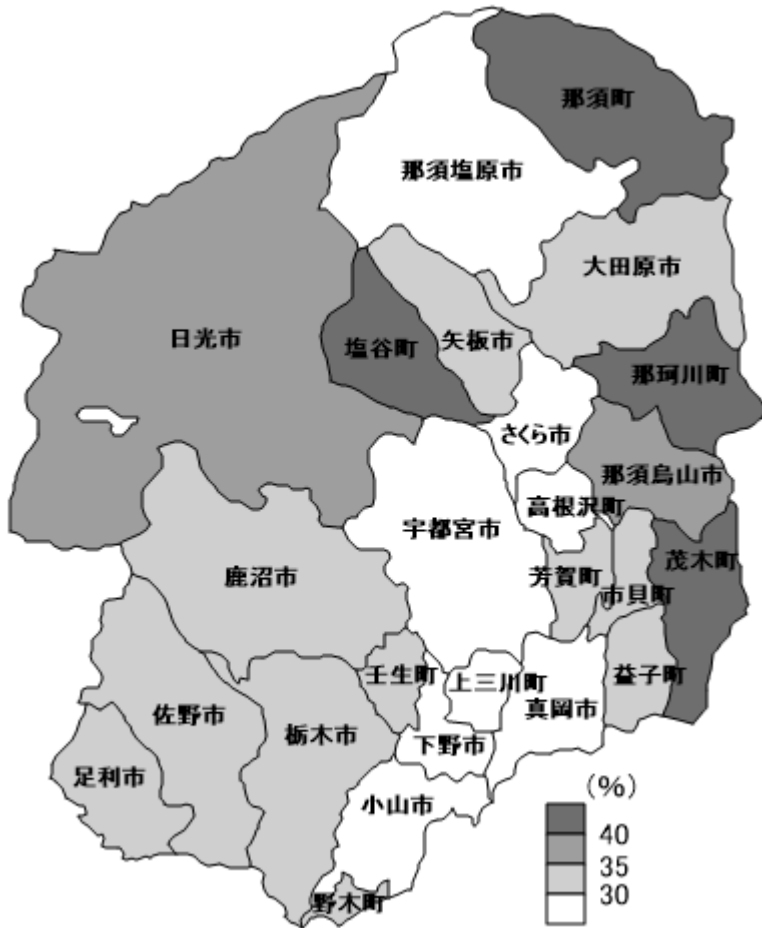


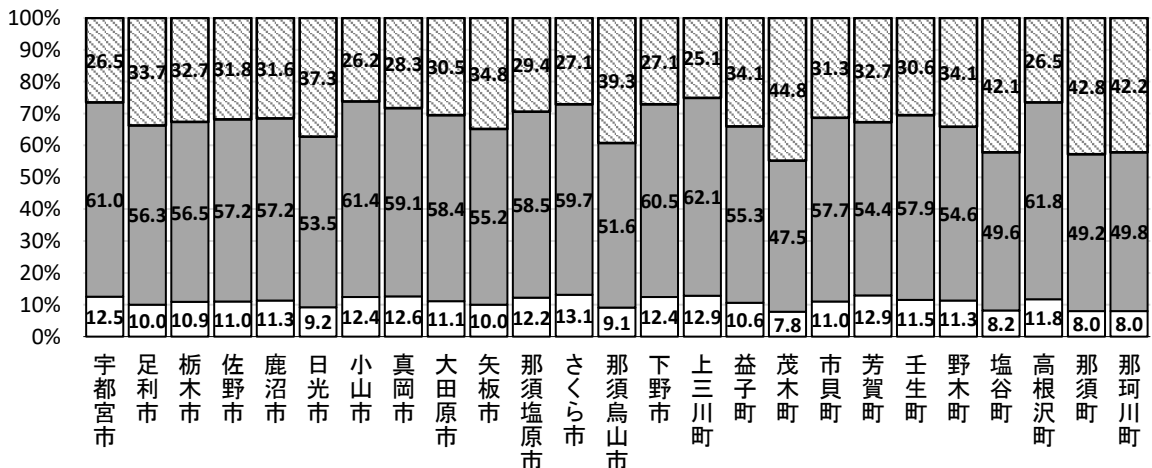
表6 65歳以上人口割合順位

順位	上位5市町	
	市町名	割合(%)
1	茂木町	44.8
2	那須町	42.8
3	那珂川町	42.2
4	塩谷町	42.1
5	那須烏山市	39.3
順位	下位5市町	
	市町名	割合(%)
1	上三川町	25.1
2	小山市	26.2
3	宇都宮市	26.5
4	高根沢町	26.5
5	さくら市	27.1

(注)順位は、数値の大きい順に付した。

図9 市町別年齢3区分別人口構成比

□0～14歳 ■15～64歳 ▨65歳以上



(3) 県内移動（市町間の社会動態）

県内移動について市町別に転出入差をみると、8市3町で転入超過、6市8町で転出超過となった。（表7、統計表第3表）

県内移動者24,180人の移動後の住所地についてみると、宇都宮市が5,849人（移動者の24.2%）と最も多く、次いで小山市が2,135人（8.8%）、栃木市が1,796人（7.4%）であった。（統計表第6表）

表7 県内移動の転出入差の大きい市町

順位	転入超過		転出超過	
1	宇都宮市	557人	日光市	347人
2	小山市	241人	大田原市	212人
3	下野市	205人	那須町	203人
4	さくら市	139人	上三川町	144人
5	那須塩原市	131人	鹿沼市	123人

第2 世帯

(1) 世帯数

令和4（2022）年10月1日現在の本県の世帯数は809,252世帯で、令和3（2021）年10月1日現在（803,118世帯）と比べると6,134世帯の増加（対前年増減率0.76%）となった。

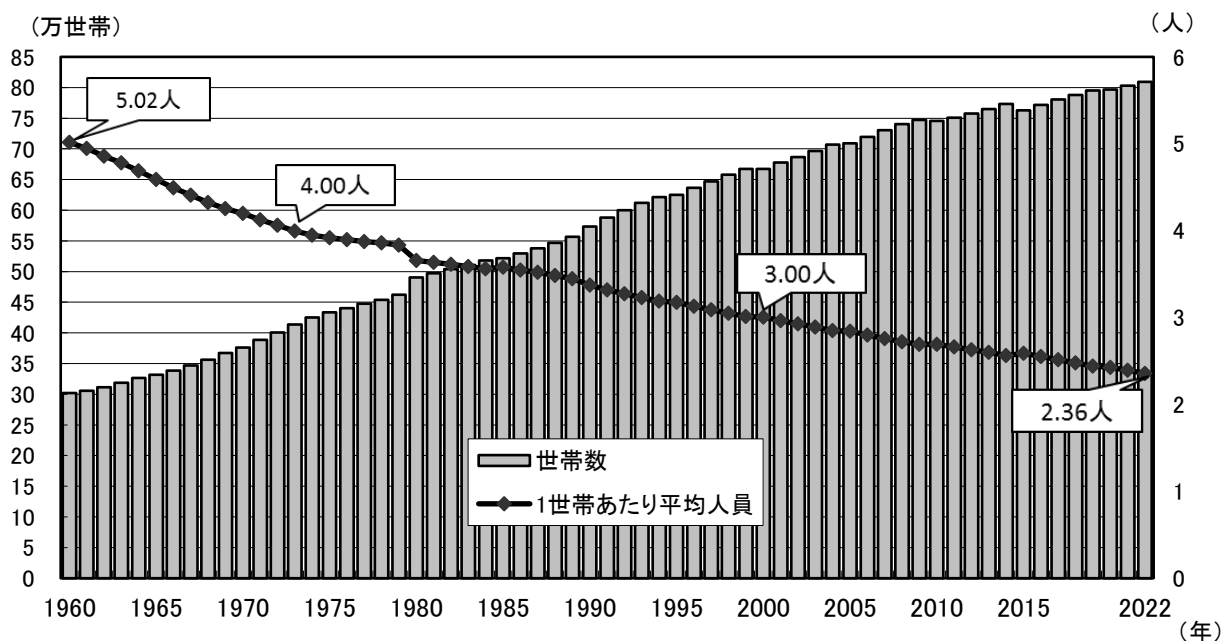
市町別に対前年増減率をみると、最も高いのは真岡市（1.79%）で、最も低いのは那珂川町（▲1.25%）であった。（図10、統計表第1・3表）

(2) 世帯人員

令和4（2022）年10月1日現在の本県における1世帯あたりの平均人員は2.36人で、令和3（2021）年10月1日現在（2.39人）と比べると0.03人の減少となった。

1世帯あたり人員を市町別にみると、最も多いのは芳賀町（2.75人）で、最も少ないのは宇都宮市（2.20人）であった。（図10、統計表第1・3表）

図10 世帯数と1世帯あたり平均人員の推移



(参考) 本県の人口ピラミッド (令和4 (2022) 年10月1日現在)

